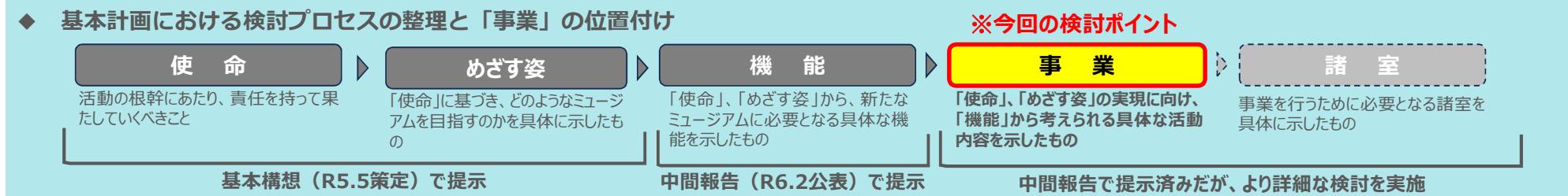


1 「事業」の位置付けと検討の進め方

（1）中間報告での整理（「事業」の位置づけ）

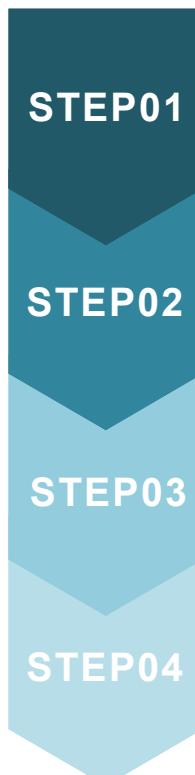
- 中間報告においては、基本構想で示した「使命」、「めざす姿」から、新たなミュージアムに必要となる具体的な「機能」や「事業活動内容の検討のポイント」について整理し、そこから導き出される「具体的な事業内容（案）」を提示した。
- 基本計画の策定に向けては、「具体的な事業内容（案）」の深度化を図る必要があることから、「機能」から考えられる「事業」について検討を進め、ミュージアム全体としての事業活動全体の考え方を整理することとする。

◆ 基本計画における検討プロセスの整理と「事業」の位置付け



（2）基本計画策定に向けた「事業」の検討の進め方

<検討の進め方>



STEP01 事業活動に関する現状・課題等の整理（【資料2】）

- 今後の事業活動について検討するに当たり、市民ミュージアム学芸員へのヒアリング（これまでのヒアリングより、さらにポイントを絞った形で実施）のほか、社会教育施設として密接なつながりを持つべき教育委員会関係機関へのヒアリングを通じ、現場のニーズや抱えている課題等の把握を行った。
- また、新たなミュージアムにおける事業と関連性が高いと考えられる本市の計画を洗い出し、主な関連する部分を整理した。

STEP02 事業活動全体のポイント・考え方の整理（【資料2】）

- 中間報告までの検討に、各種ヒアリング結果や関連計画等を照らし、新たなミュージアムの事業活動において押さえるべきポイントをまとめ、事業活動全体の考え方について整理した。

STEP03 収集機能、展示機能に係る具体的な活動方針の検討（【資料3】【資料4】）

- 新たなミュージアムの大きな特徴となりえる「ラーニング機能」「地域共創機能」「交流機能」などを考えるうえで、まず、ミュージアムの基盤となり、他の機能と密接に関係する収集機能、展示機能から個別具体的な検討を行うこととし、それぞれの活動方針を整理した。

STEP04 「ラーニング機能」なども含んだ「具体的な事業内容（案）」（STEP0（開館前）、STEP1（開館当初））の深度化

※ 次回提示予定

- 中間報告で示した「具体的な事業内容（案）」について、現在の市民ミュージアムの活動「IN ACTION」にあたるSTEP0（開館前）と、「IN ACTION」の一つの到達点となるSTEP1（開館当初）を中心に深度化し、新たなミュージアムの事業活動の方針を整理する。

2 STEP01 事業活動に関する現状・課題等の整理

(1) 市民ミュージアム学芸員へのヒアリング内容（中間報告以降実施分）

市民ミュージアムの事業活動の主な現状・課題等		
収集機能	展示機能	その他（ラーニング機能等）
<p>【博物館】</p> <p>① 開館前後の収集傾向から、<u>近代以前の資料の割合が高くなっている。</u> ② 今後は、比較的手薄な<u>近代以降の資料収集への注力</u>が必要。</p> <p>【美術館】</p> <p>① 現在は、メディアや表現方法の変化に分野の括り方が追い付いていない状態となっている。（例えば、「グラフィック」という分類は現代では使わない。） ② 開館時に設定された「<u>大衆文化</u>」「<u>複製芸術</u>」についてはそのあり方が当時から変化しており、現代的に捉え直すことが必要。 ③ これまでのコレクションを継承しつつ、<u>市民生活、現代の時代性や社会状況を表現した作品を収集していく</u>ことがよいのでは。</p> <p>【共通】</p> <p>① 美術館分野が近現代の資料に焦点を当てていたのに対して、博物館分野は近代以前の資料が多く、これまで<u>収集方針の点で</u>いうと博物館、美術館の融合は難易度が高かった。</p>	<p>【博物館】</p> <p>① これまでの「水と共同体」というテーマでは、<u>川崎の大きな特徴である都市化以降の歴史や文化を伝えることが難しく、通史の全体像が掴みにくい構成</u>にならざるを得なかった。 ② 民俗学で扱うものは非常に幅広いが、「水と共同体」のテーマに縛られていたため、<u>民俗分野の展示も内容が偏っていた</u>。（農耕や稻作とそれにかかる年中行事など） ③ これまでの常設展示は、歴史分野と民俗分野とが分かれており、<u>時間軸で整理して両方を伝えようとする構成ではなかった</u>。 ④ これまでの常設展示は、<u>川崎市内の各地域の特徴が掴みにくい</u>内容であった。</p> <p>【美術館】</p> <p>① 開館当初、美術館部門の常設展示を作っていたが、<u>内容を定期的に変えてやっていくことはコレクションの内容や展示室の構造・環境等の面からも難しかった</u>ので、開館後は企画展としてコレクション展示が年2回程度できると良い。</p>	<p>【共通】</p> <p>① 市民館などの他施設とは現場レベルでの交流や情報交換はあまり行われておらず、<u>連携した活動の必要性もこれまで強く意識はされていなかった</u>。 ② 教育普及事業は目的が明文化されていなかったので、<u>効果や課題などが曖昧になっている</u>ところがある。 ③ 他施設で展示等を行う際、開催施設の活動と認識されやすく、<u>市民ミュージアムの認知度向上にはつながっていない</u>ように感じる。 ④ 被災後の教育普及事業では、<u>大きな実物や展示物を見せることができないため不十分</u>な状態となっている。 ⑤ ミュージアム活動全般について、<u>市民参加の可能性を探っていく必要がある</u>。</p>

(2) 教育委員会関係機関へのヒアリング内容

ヒアリング先	市民ミュージアムとの関わりでの主な現状・課題等
社会科教育研究会事務局	<p>① 小学生は副読本などで市の変遷を学んでおり、写真等の<u>情報プラスαの体験がないと行く意義が薄い</u>。 ② 距離的に遠い学校は、<u>出前授業がないとミュージアムとの接点が少ない</u>。 ③ 「昔の暮らし展」はカリキュラム的に特に小学校3年生に有用なので、<u>開催期間が授業で昔の暮らしを取り扱うタイミングと合うと良い</u>。（現状は合わないことが多い）</p>
カリキュラムセンター 情報・視聴覚センター	<p>① 課外授業等においてバスで移動する際は、<u>半日利用よりも1日利用できるほうが良い</u>。 ② 学習指導要領の改訂等で取り扱う学習テーマが変わると、<u>各学校の授業等でミュージアムの利用の仕方が変わるかもしれない</u>。 ③ 採用される教職員も川崎市域全体の歴史等に馴染みがない場合があるので、<u>教材研究の一環としてミュージアムを活用できると良い</u>。</p>
生涯学習課 市民館・図書館	<p>① 市民館、図書館ともに<u>ミュージアム側から連携のアイデアや実例、実績などを提示</u>してもらったり、「<u>ミュージアムに行くとこういうことが学べる</u>」ということを広く広報してもらえると、ミュージアムとの連携余地は増えていくのではないか。 ② 市民館では、<u>歴史や文化などを扱う連続講座での協力ができると良い</u>。（全〇回の連続講座のうちの1回をミュージアムの学芸員が受け持つなど） ③ 図書館では、<u>文化財の関連図書の展示を行ったり、ミュージアムの巡回展ができると良い</u>。</p>
地域教育推進課 (寺子屋事業)	<p>① プログラムをキットにし、<u>具体的な内容・費用などをまとめたものがあれば、選びやすい</u>。 ② 市民ミュージアムが<u>出張事業を行っていることを知らない学校も多いかもしれない</u>。 ③ イベントに申し込みたいと思ったときにすぐ申し込めるようなシステムがあると良い。</p>

(3) 新たなミュージアムとの関連性が高い本市の行政計画等

- ・基本構想や中間報告においても、新たなミュージアムに関連する本市の事業や計画について示したが、各事業の進捗や計画改定等の状況を踏まえ、具体的な関連部分を次のとおり整理した。
- ・今後の事業活動の検討においては、関連計画との結びつきを機能レベルで意識したうえで、深度化を進めていく。

〈関連計画における具体的な関連部分〉

関連計画	関連事項	新たなミュージアムの「機能」との具体的な関連
第3期川崎市文化芸術振興計画	・ 「アート・フォー・オール」に向けたまちづくりのために、人・場所・モノを緩やかにつなぐ新たなミュージアムの活動を見据えたアートコミュニティ形成の取組が例示されている。	・ 「アート・フォー・オール」の概念がラーニング機能と、さらにそれによる「まちづくり」という点で地域共創機能と関連する。
	・ 生田緑地に点在する文化施設が連携した地域の魅力の発信のために、新たなミュージアムの開館を見据えた、ばら苑を含めた生田緑地周辺全体のエリア価値向上に資する取組が例示されている。	・ 生田緑地に点在する文化施設との連携により「エリア価値向上」を目指すという点で、地域共創機能と関連する。
川崎市文化財保存活用地域計画	・ 文化財的魅力を活かした地域づくりの方針のもと、文化財を活用した学校教育・生涯学習が推進されている。	・ 「文化財を活用した学校教育・生涯学習」の推進という点で、ラーニング機能に関連する。また、学校教育に資することで人材育成機能にもつながると考えられる。
	・ 文化財的魅力を活かした地域づくりの方針のもと、地域づくりと一体になった文化財の保存・活用が推進されている。	・ 「地域づくりと一体となった文化財の保存・活用」という点で、地域共創機能の目的と関連する。
	・ 文化財をみんなで支える仕組みづくりの施策として、市民や市民団体、教育機関、企業等の幅広い参加により文化財を保存・活用をしていける仕組みづくりが検討されている。	・ 「文化財をみんなで支える仕組みづくり」という点で、多様なつながりを生む交流機能とつながりが深い。
かわさき教育プラン第3期実施計画	・ 新学習指導要領を受けて、地域における教育活動の推進を図るため、地域コーディネーターを設置するなど、地域と学校をつなぐための施策が示されている。	・ 「地域と学校をつなぐ」という点で地域共創機能とつながる。また、「地域コーディネーター」をつながりのハブと捉えると、交流機能にも関わる。
	・ 今後の市民館・図書館では「学びと活動を通じたつながりづくり」の役割を果たすことを目指している。	・ 「学びと活動」の役割という点で、ラーニング機能とつながる。また、それによる「つながりづくり」という点で、交流機能と関連する。
	・ 市民が自ら学び、学んだ成果を地域づくりや市民活動に活かす生涯学習事業や、地域を支える活動や市民主体の学習を担う人材の育成に取り組んでいる。	・ 「自ら学び、学んだ成果を地域づくりや市民活動に活かす」という点で、ラーニング機能及び地域共創機能に関連する。また、「地域を支える活動や市民主体の学習を担う人材の育成」という点で人材育成機能にもつながる。
新・かわさき観光振興プラン	・ 「産業観光」のバージョンアップを目指す取組のひとつに、「博物館等と産業観光のタイアップ」が盛り込まれている。	・ 「博物館等と産業観光のタイアップ」という点で、地域共創機能に関連する
	・ 「生田緑地」の観光強化をめざす取組のひとつに、青少年科学館、日本民家園、岡本太郎美術館の3館の連携によるイベント等の開催が盛り込まれている。	・ 「生田緑地」の観光強化をめざすという点で、地域共創機能に関連する。また、青少年科学館、日本民家園、岡本太郎美術館の3館との連携という点で、交流機能にも関連している。
	・ 「市民」が担い手となった取組の支援を推進するために、「ふるさと川崎への誇りと愛着の育成」が目指されている。川崎の良さを市外の人に進んで発信することができる人材の育成を推進している。	・ 「川崎の良さを市外の人に進んで発信することができる人材の育成」という点で、人材育成機能及び地域共創機能に関連する。
生田緑地ビジョン	・ 文化財の保存・活用に加え、新たなミュージアム構想を含めた緑地内の多様な文化施設と緑地との融合、アートや文化を活かした緑地内、周辺まちづくりとの一体的な取組等により、緑地内外の一体的な魅力向上を進め、生田緑地の歴史・文化の融合を進めることが掲げられている。	・ 「多様な文化施設と緑地との融合、アートや文化を活かした緑地内、周辺まちづくりとの一体的な取組等」という点で、地域共創機能及び交流機能に関連する。

3 STEP02 事業活動全体のポイント・考え方の整理

（1）事業活動全体における今後の検討のポイントの整理

- 中間報告において示した「事業活動内容の検討のポイント」について、各種ヒアリング及び関連計画の動向を踏まえ、今後の事業活動内容の検討においてさらに明確な方向性のイメージを持つべく、「今後の具体な検討のポイント」として次のとおり整理した。

機能名	機能力テゴリ	事業活動内容の検討のポイント（中間報告再掲）	事業活動全体における今後の具体的な検討のポイント
①収集機能	コンテンツ開発・維持	<p>（市民意見を踏まえたもの）</p> <p>①着実かつ適切な収集・保管活動の実施 ②調査研究成果を活用したまちづくりや地域の魅力発信の実施 ③「収蔵品の修復・再生」に着目した発信や共有・還元等の活動</p> <p>（市民ミュージアムの活動等を踏まえたもの）</p> <p>①これまでの収集方針を踏まえた近現代資料の収集の重点化 ②収蔵品データベースの一層の充実 ③新たな収蔵品管理方法の検討</p> <p>（文化芸術に係る社会的要請・変化等を踏まえたもの）</p> <p>①時代の変遷に合わせた、取り扱う分野の再整理 ②市民参加型のデジタル・アーカイブ活動の推進 ③収蔵品レスキュー面での他機関との連携強化</p>	<p>①博物館分野における<u>近現代資料の収集の重点化</u> ②美術館分野における<u>市民生活、現代の時代性や社会状況を表現した作品の収集</u> ③博物館分野、美術館分野で連動した効果的な収蔵品の活用を念頭に置いた収集の実現 ④収蔵品の体系的な管理や魅力発信を目指したデジタル・アーカイブ化とその活用</p>
②保管機能			
③調査研究機能			
④修復機能			
⑤展示機能	コンテンツ活用	<p>（市民意見を踏まえたもの）</p> <p>①市民参加型の展示づくり ②子どもや若者を対象とした活動の強化 ③まちづくりや地域の魅力向上への貢献</p> <p>（市民ミュージアムの活動等を踏まえたもの）</p> <p>①「デザイン」などのキーワードによる融合展示 ②体験型の資料活用への取組強化 ③地域と協働した「まちなかミュージアム」の運営</p> <p>（文化芸術に係る社会的要請・変化等を踏まえたもの）</p> <p>①他者理解や省察を促す展示等の活動 ②社会的包摂や健康・幸福の実現につながる活動の強化 ③地域・社会課題解決への貢献</p>	<p>①博物館分野の<u>常設展示テーマ「水と共同体」の再検討</u>及び川崎の歴史や文化、特徴をよりわかりやすく伝える、<u>新たな常設展示の検討</u> ②学生だけでなく、教員も含めた<u>学校全体としてのミュージアム利用につながるコンテンツの検討</u> ③市民館等での連続講座への協力・支援など、<u>様々な学びの場でのミュージアムのコンテンツの活用</u> ④市民が<u>主体的に学べる場の創出</u>や、<u>様々な学び方の提案</u> ⑤生田緑地エリアの文化施設と連携した、<u>エリアの文化的価値や魅力向上への貢献</u> ⑥産業観光など、<u>川崎市の他分野の特徴的な取組との連携</u> ⑦「アート・フォー・オール」の実現に向けた<u>ミュージアム活動の実施</u></p>
⑥ラーニング機能			
⑦地域共創機能			
⑧人材育成機能	つながり創出	<p>（市民意見を踏まえたもの）</p> <p>①市民の文化芸術活動の積極的なサポート ②市民を巻き込んだ交流ネットワークの構築 ③世代間連携の促進</p> <p>（市民ミュージアムの活動等を踏まえたもの）</p> <p>①文化芸術への入口となる、親しみやすい取組の展開 ②「こどらー」など、ミュージアムの活動や運営を支える主体との協働 ③アーティストや地域人材などとの連携強化</p> <p>（文化芸術に係る社会的要請・変化等を踏まえたもの）</p> <p>①文化芸術を未来につなぐ担い手の育成 ②ミュージアムの運営を支える人材の育成 ③市民や地域、企業等の多様な主体との連携</p>	<p>①ミュージアム活動全般における<u>市民参加の可能性の検討</u> ②市内の関連施設等との連携により、利用者層の幅を広げるなど、<u>相乗効果を上げる取組の展開</u> ③様々な主体とのミュージアムの連携・活用につながるような、<u>まちなかミュージアムの取組の積極的な広報</u> ④多様な市民や関係機関と連携した、<u>多様な主体による文化財の保存・活用を進めていく取組の展開</u></p>
⑨交流機能			

（2）事業活動の考え方（案）

- ・前ページの「今後の検討のポイントの整理」を踏まえ、事業活動を行っていくうえで念頭に置くべき基本方針について「事業活動の考え方（案）」として次のとおり整理した。
- ・基本計画策定に向けて、「事業活動の考え方（案）」の検討を深度化していくとともに、併せて収集、展示等の具体的な活動方針を検討していくこととする。

事業活動の考え方（案）

1 過去だけでなく、現代の社会や生活を捉え、変わりゆく川崎の姿を未来につなげていく活動を行う。

<Point>

- ① 収集の考え方や展示のあり方を従来のものから再検討し、これまで蓄積してきた過去だけでなく、我々が生きる現代についても的確に捉え、未来に継承する取組を行う。
- ② 歴史や文化を伝えていくにあたり、市民が親しみを持ちやすいよう、暮らしや生活との結びつきを意識した取組を行う。

2 市民をはじめとした多様な主体との共創により、文化芸術の裾野を広げ、様々な交流や学びの場を広げる活動を行う。

<Point>

- ① 市民や企業、関係団体のほか、福祉や医療、観光など他分野との共創を通じ、誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりに資する取組を行う。
- ② 教育関係機関のニーズや現状・課題を把握し、市民が主体的に学ぶことができる場や、学ぶことの楽しさを発見できる取組を行う。

3 関連施設や他事業との連携・協力により、市域の魅力や文化的価値の向上に資する活動を行う。

<Point>

- ① 蓄積した資料・情報の活用のほか、市内の他の文化施設等と連携・協力し、生田緑地をはじめとした市域の魅力や文化的価値の向上につながる取組を行う。
- ② 博物館法の改正趣旨を踏まえ、文化観光その他の活動の推進を図り、地域の活力の向上に資する取組を行う。